

守山三大まつり

祭礼本番
 5月4日(月・祝)
 5日(火・祝)

若者の都会流出、子どもの減少など、数百年受け継がれてきた伝統の継承も徐々に難しくなっている中、地域ぐるみで取り組み、未来へ受け継いでいます。

多くの人に其物に来てもらい、地域の伝統と歴史にふれてもらうことが守り手にとっての最大のエールです。

関文化財保護課 ☎(582)1156 📠(582)9441

小津神社 長刀まつり

ユネスコ無形文化遺産「風流踊(ふうりゅうおどり)」構成要素・国指定無形民俗文化財「近江のケンケト祭り長刀(なざなた)振り」



約1,450年前、欽明天皇の頃に琵琶湖のはんらんにより湖中へ流失した社殿を再建した際、氏子たちが踊りを奉納したのが、このまつりの始まりと言われています。

祭礼は例年5月5日に小津神社とその周辺で奉納され、小津・玉津学区11町が8年周期の輪番制で踊りを担当し、令和8年度は赤野井町が担当です。

当日は、100人を越す壮大な長刀行列による妙技の披露と、きらびやかな衣装に身を包んだ太鼓、ささら、笛などの楽器による田楽踊りが行われます。

午前9時30分ごろに小津神社大鳥居前を出発し、正午ごろから赤野井町の若宮神社へと行列が練り歩きます。

下新川神社 すし切りまつり

ユネスコ無形文化遺産「風流踊(ふうりゅうおどり)」構成要素・国指定無形民俗文化財「近江のケンケト祭り長刀(なざなた)振り」



崇神天皇の息子である豊城入彦命が幸津川に訪れた際に、「鮒ずし」をさしあげたことが起源。

本祭となる5月5日には、2人の青年が決まった所作で郷土料理の「鮒ずし」を切り分ける「すし切り神事」が行われた後、境内でかんこの舞いと長刀振りが奉納されます。

かんこの舞いは、パチを持った雄の獅子と、太鼓を持った雌の獅子に扮した踊り子が音頭取りや鉦、ササラに合わせて太鼓をたたくもので、初めは求愛してくる雄を嫌っていた雌がだんだんと仲良くなっていく様子を表現します。子孫繁栄や五穀豊穡を願って奉納されます。

当日は午後0時30分ごろから、すし切り神事が行われます。

馬路石邊神社 豊年踊り

守山市指定無形民俗文化財



昭和40年代に一度衰微してしまいましたが、有志の努力により昭和51年に保存会が結成され、復活しました。歌や踊りから、元は中世の田楽の系統と考えられます。

現在は毎年、5月4日・5日に奉納されます。玉津村史によれば、元は小津神社の祭礼に属していたと伝えられています。

踊りは太鼓持ちと太鼓打ちが中央、周りで音頭取りと稚児が輪を作り、ササラや笛の音色と共に音頭取りの歌詞に合わせて舞い、奉納されます。いずれの役も、きらびやかな衣装に身を包んで町内を練り歩きます。

5月5日の本祭は、市役所近くの御旅所から正午ごろに行列が出発します。



遺跡からひも解く守山

～歴史と伝統文化の宝庫～

守山市には、2・3頁で紹介する三大まつり(下新川神社・小津神社の「近江のケンケト祭り長刀振り」、馬路石邊神社の「豊年踊り」、勝部・浮気の「火まつり」、古高の「鼓踊り」などの地域で連続と引き継がれてきた無形民俗文化財や、中山道守山宿、大庄屋諏訪家屋敷などの誇るべき「地域の宝」が数多く存在します。

今月号では、悠久の歴史を紡いできた守山の遺跡について取り上げます。

1つ目は服部遺跡です。昭和49年、野洲川改修工事の際に発見され、弥生時代前期の水田跡が見つかりました。同時に縄文時代のまつりの道具などが出土しており、稲作以前の時代より人々が活動していた様子がうかがえます。

遺跡のそばには、市立埋蔵文化財センターが整備され、遺跡出土品の収蔵と展示の役割を果たしています。

2つ目は下之郷遺跡です。現在は、下之郷史跡公園として整備されています。

弥生時代中期の遺跡であり、集落の周囲に大規模な濠



「わた5HIGA輝く国スポ・障スポ2025」で、高門宮妃久子殿下が伊勢遺跡をご視察されました

を巡らせる「環濠集落」であることが特徴です。この環濠は外敵の侵入阻止や、水田の灌漑用水などの役割を持っていたのかも知れません。集落の面積も大きく、大規模な土木工事を可能とした当時の人口増加や社会のまとまりがうかがえます。

3つ目は伊勢遺跡です。弥生時代後期の遺跡であり、現在発掘調査で確認されている整然と配置された12棟の大型建物からは、伊勢遺跡が滋賀県南部地域に生まれた「國(クニ)」の政治・祭祀の中枢地で、「倭國」形成に主導的な役割を担っていたのではないかと考えられます。

令和5年に伊勢遺跡史跡公園がオープンし、出土品のレプリカや伊勢遺跡保存会の皆さまが作成したジオラマ、迫力の大型スクリーンでの伊勢遺跡デジタル復元映像などから、悠久の歴史を体感できるようになりました。

その他、古墳時代前期の「儀仗」などの木製品が見つかった下長遺跡など、市内には幅広い時代の数多くの遺跡が存在し、古来から多くの人が暮らした豊かな土地であったことが分かります。

ぜひ、これらの遺跡を訪れていただき、悠久の歴史に想いをかせていただければ幸いです。

赤野井町・矢島町でのお祭り道具作り



長刀本体を手掛ける赤野井町 河畑さん



長刀を花房で飾る矢島町 矢島注連縄花房会

5月5日に本祭が行われる小津神社の長刀まつりですが、地域では1年間を通してお祭りの準備が行われています。

赤野井町の河畑建具工業では、長刀本体の作成を長年手掛けられています。カンナで何度も研ぎ直しながら、ヒノキ材(シラタ)を1本1本丹精込めて加工されています。

矢島町では矢島注連縄花房会の皆さまが、毎年技術を磨きながら長刀やササラをきらびやかに飾る花房の作成を手掛けられています。少しでもずれると綺麗な模様には仕上がらないため、ミリ単位での調整を繰り返し行い、きめ細やかに仕上げられています。

このように、壮大なお祭りの裏側には、地域の人々による並々ならぬ努力があるのです。